# 緒言

敦煌出土ノ遺書ハ千古濛漠ノ史實ヲ闡明スル秘鍵ナリ。然レドモ其ノ主要ナルモノ多クハスタイン氏ペリオ氏等ノ獲ル所トナリテ、今遠西英佛兩京ノ書館ニ藏セラレ、東方好學ノ士ノ之ニ就クコト易キニ非ズ。余曩ニ巴里ニ留マリ、遺書ノ調査ニ從フヤ、之ヲ刊行シテ廣ク人間ニ頒チ、學術研究ノ資ニ供スルノ急務ナルヲ思ヒ、ペリオ氏ト往來ノ間、談屢此ノ事ニ及ベリ。氏ハ夙ニ其ノ要ヲ認メ、之ヨリ先、遺書中ノ漢文籍數十種ヲ影鈔シテ羅振玉氏ニ致シ、既ニ印行ヲ經タリシガ、固ヨリ是レ巨然タル蒐集ノ一小部分タルニ過ギザレバ、新ニ余ト協力シテ、其ノ刊行ヲ企ツルニ至レリ。茲ニ於テ余ハ之ヲ上海ニ於テ同胞諸氏ノ組織セル東亞攷究會ニ通ジタリシニ、同會ハ此ノ計畫ヲ贊シ、學界ノ爲進ミテ出版ノ事業ニ任ズルコト成レリ。之ヲ本書出刊ノ由來ト爲ス。

本書類ヲ二種ニ分チ、一ハ玻璃版ニ依リテ原本ヲ傳ヘ、二ハ活字版ニ依リテ其ノ文字ヲ收錄セリ。共ニ研究ノ資料ヲ頒布スルニ外ナラザレバ、原文ニ存スル誤奪ノ如キモ、敢テ之ヲ指摘シ、或ハ意ヲ以テ更改スル所無シ。但ダ活字版ニ於テハ、原本中ニ存スル明白ナル略字ニシテ、今字型ノ存セザルモノハ普通ノ形ニ改メタル所無キニアラズ、然レドモ亦タ研究ノ上ニ於テ支障無シト思惟セシモノニ限レリ。

思フニ敦煌遺書ノ種類ハ多樣ニシテ、其ノ關スル所廣ク學術ノ諸分野ニ亙リ、一二ノ力能ク之ヲ究明シ得ベカラズ。此ノ書出ヅルノ後、世界專門ノ學士各其ノ學ブ所ニ依リテ研鑽ノ功ヲ擧ゲ、以テ學界ニ寄與スル所アラバ、編者ノ幸甚シト爲ス。

大正十五年九月

羽田亨